

1 研修の目的・ねらい

各地域の周産期医療機関が、災害時に備えるため災害時小児周産期リエゾンの活動を理解するとともに、各立場から意見交換等を行い、地域の実情を踏まえた災害時小児周産期リエゾンの在り方の検討に資するための研究会とする。

2 主催 宮城県（直営）**3 実施計画 ※3か年計画**

年度	内容
H30年度	～啓発・検討～ 周産期医療関係者に災害時小児周産期リエゾンの業務内容等を周知するとともに、県内の周産期医療体制を踏まえた小児周産期の災害医療体制についてフィードバックを受ける。（質疑応答・アンケート）
R1年度	～県内ルールの検討～ 国が定めた災害時小児周産期リエゾン活動要領を参考に、県内における小児周産期の災害医療体制の検討を行い、宮城県災害時小児周産期リエゾン運用計画の策定に向け意見を伺う。（意見交換）
R2年度	～体制整備～ 宮城県災害時小児周産期リエゾン活動要領の周知、必要に応じて補足等を行う。（グループワークによるシミュレーションを想定）

4 日時・場所

令和2年3月8日（日） 午後1時から午後4時30分まで
宮城県庁2階 講堂

5 参集範囲（県内）

(1) 産科，新生児科，小児科の医療従事者及び助産師	50人	
(2) 災害医療コーディネーター又はDMAT隊員	10人	
(3) 救急隊員	10人	
(4) 行政職員	10人	合計80人程度

6 内容と講師（予定）

- (1) 災害時小児周産期リエゾンの活動（概要・災害時編）
国立病院機構災害医療センター臨床研究部 厚生労働省 DMAT 事務局 岬 美穂 先生
- (2) 災害時小児周産期リエゾンの活動（平時の準備編）
東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門母児医科学分野教授 菅原 準一 先生
- (3) 災害医療コーディネーター及びDMATの活動
大崎市民病院救命救急センター長 山内 聡 先生
- (4) 宮城県災害時小児周産期リエゾン運用計画等
宮城県保健福祉部医療政策課
- (5) 小児在宅における災害対応
宮城県医師会理事 高田 修 先生
- (6) 参加者によるグループワーク

【グループワークについて】

1 内容

Q. 災害時小児周産期リエゾンとは、災害時に、都道府県が小児・周産期医療に係る保健医療活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、必要な助言及び調整を行います。

自分が勤務する医療機関において被災したと仮定した場合、県庁の調整本部で活動するリエゾンに対して、現場から発信すべき情報及び発信手段とは何が考えられますか。また、リエゾンに求める活動内容とは何ですか。

A. (想定回答)

○発信すべき情報

被害状況（施設設備、ライフライン）、患者情報、必要な人的物資支援 など

○発信手段

日本産婦人科学会大規模災害情報対策システム（PEACE）、新生児医療連絡会の災害時連絡網、EMIS、防災無線、FAX など

○リエゾンに求める活動内容

搬送調整、他機関との連絡調整、近隣被害状況の情報収集・発信 など

☆ねらい

- ・災害時の対応についてイメージできる。
- ・県は積極的な情報収集に努めるが、現場からも情報を発信することを意識してもらう。
- ・運用計画の『第6 活動内容』に記載すべき内容の整理ができる。

2 グループ構成

1グループ8人 × 10グループ

■ 産科小児科の医師等	5人
■ 災害医療コーディネーター又はDMAT隊員	1人
■ 救急隊員	1人
■ 行政職員	1人

各グループに1名程度、進行役（リーダー）を配置する。（事前依頼）
講師の先生方には、各グループを巡回いただき、適宜助言してもらう。

3 時間配分

- ・自己紹介、役割分担 5分
 - ・個別意見出し 5分
 - ・グループまとめ 10分
 - ・発表 30分
 - ・講評 10分
- ⇒計 1時間程度

4 まとめ方

個別意見を付箋紙に書き出し、グループごとに意見をまとめる。

※職種を付箋紙の色で区分する。

青：小児周産期医療従事者、助産師 黄：災害医療コーディネーター、DMAT
桃：救急隊員 緑：行政職員

令和元年度 宮城県災害時小児周産期 リエゾン研究会を開催します

各地域の周産期医療機関等が、災害時に備えるため災害時小児周産期リエゾン※等の活動を理解するとともに、各立場から意見交換を行い、地域の実情を踏まえた災害時小児周産期リエゾンの在り方の検討に資するための研究会を開催するものです。

※災害時小児周産期リエゾン＝自県及び近隣県の被災時に、県の保健医療調整本部等において小児・周産期医療に関する情報を集約し、判断・搬送調整等を行うもの。

日時：令和2年3月8日（日） 午後1時から午後4時30分まで

場所：宮城県行政庁舎（宮城県庁） 2階 講堂

対象者：

県内周産期母子医療センター等の産科医・小児科医・助産師 各1人程度

県内の災害医療コーディネーター，DMAT隊員，救急隊員，行政職員 各機関1～2人程度

内容（予定）：

挨拶 宮城県保健福祉部医療政策課

東北大学小児病態学分野教授 呉 繁夫 氏

I 講演

(1) 災害時小児周産期リエゾンの活動（概要・災害時編）

国立病院機構災害医療センター臨床研究部

厚生労働省DMAT事務局 岬 美穂 氏

(2) 災害時小児周産期リエゾンの活動（平時の準備編）

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

地域医療支援部門母児医科学分野教授 菅原 準一 氏

(3) 災害医療コーディネーター及びDMATの活動

大崎市民病院救命救急センター長 山内 聡 氏

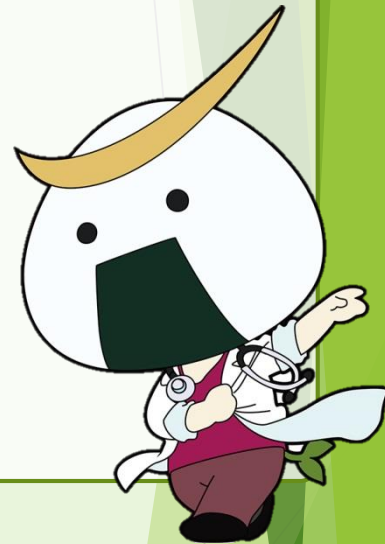
(4) 宮城県災害時小児周産期リエゾン運用計画等

宮城県保健福祉部医療政策課

(5) 小児在宅における災害対策

宮城県医師会理事 高田 修 氏

II 参加者によるグループワーク



©宮城県・旭プロダクション
医師確保PRキャラクター
「ドクターむすび丸」



アクセス

【徒歩】 仙台駅西口→（約2km・約20分）→県庁

【バス】 「仙台駅前」→（約5分）→「県庁市役所前」下車→（徒歩約3分）→県庁

【地下鉄】 「仙台」駅→（約4分）→「勾当台公園」駅（北2番出口）→（徒歩約3分）→県庁

※県庁県民第1・第2駐車場は有料かつ駐車台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関の御利用をお願いします。

〈問い合わせ先〉

宮城県保健福祉部医療政策課 地域医療第一班 主事 根井 ちさと

TEL：022-211-2622（直通） FAX：022-211-2694 E-mail: tiikii1@pref.miyagi.lg.jp